

10/7 みずのき美術館が！ 北町商店街に誕生します！

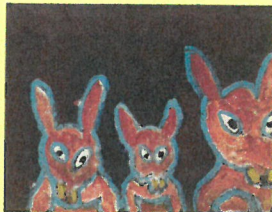


10/7(日)は美術館の無料開放 14:00~17:00

この日は観覧料 無料です。
みなさまぜひこの機会にみずのき美術館で
『アール・ブリュット』に出会ってください！

アール・ブリュット (art brut) って？

第2次世界大戦後、価値観の再編成が行われる中、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフェによりつくられた言葉。日本語に訳される場合には、「生(き)の美術」「生(なま)の美術」とされることが多い。伝統的な美術教育を受けていない作り手によって制作されるそれらの作品は、美術史的な枠組みでは解釈し尽くすことができない。イギリスの美術史家ロジャー・カーディナルは「アウトサイダー・アート (outsider art)」と訳している。



開館記念展

「日本のアール・ブリュットについて語ろう
～私たちが考えるこれからの美術～」


[会 期] 2012年10月8日(月・祝)～2013年3月17日(日)

[監 修] 保坂健二郎(東京国立近代美術館主任研究員)

[入館料] 一般400円/高大生200円/中学生以下無料

[開 館] 水曜日～日曜日 10:00～18:00

休館日:月曜日・火曜日(但し祝日の場合は開館)

[主 催] みずのき美術館  日本財団
The Nippon Foundation

開館記念特別イベント

10/7 10/8 亀岡祭の宵宮に灯すランタンをいっしょに作ろう！
手作りランタンワークショップ

参加費無料
申込不要

時間 7日 14:00～16:30 / 8日 13:00～16:30 会場 みずのき美術館前駐車場

みずのきのアートプロジェクトですっかり恒例となった、風船を使ったランタンづくり。今年はこのランタンを持って、10/24(水)に開催される亀岡祭り・宵宮で亀岡の城下町を練り歩きます。

※糊で汚れてもよい服装でお越しください。
宵宮で灯させていただいた後、
ランタンは返却できませんので、ご了承ください。



10/7 トークイベント
「亀岡で“やってみよう”と思った日

参加無料

時間 14:30～16:00 会場 北町駐車場

亀岡を拠点に活躍されている方々に、亀岡の魅力や活動にかける想いをお話いただけます。また、美術館の立ち上げにご協力いただいた方々を交え、みずのき美術館開館までのプロセスと照らし合わせながら、亀岡で“やってみよう”と思われた、そのお気持ちをお聞きます。

出演者(予定)

乾 久美子(みずのき美術館 建築・設計)
菊地 敦己(みずのき美術館 VI)
保坂 健二郎(開館記念展 監修)

竹内 博士(亀岡市民新聞編集長)
福田 幸志郎(福幸塾代表)
ベリー 真紀子(京・くろかる隊理事)
奥山 理子(みずのき美術館スタッフ)



※美術館に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ

みずのき美術館 開設準備室

〒621-0007 京都府亀岡市河原林町河原尻下五丹12(福)松花苑みずのき内
Tel:0771-23-2101 Fax:0771-25-4634 E-mail:mizunoki-art@syokaen.jp

10/7以降は

みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18
Tel:0771-20-1888 Fax:0771-20-1889 E-mail:mizunoki-art@syokaen.jp

みずのき美術館

トークイベント会場

北町商店街

やまざき
商店

● 安井歯科医院

● カール美容室

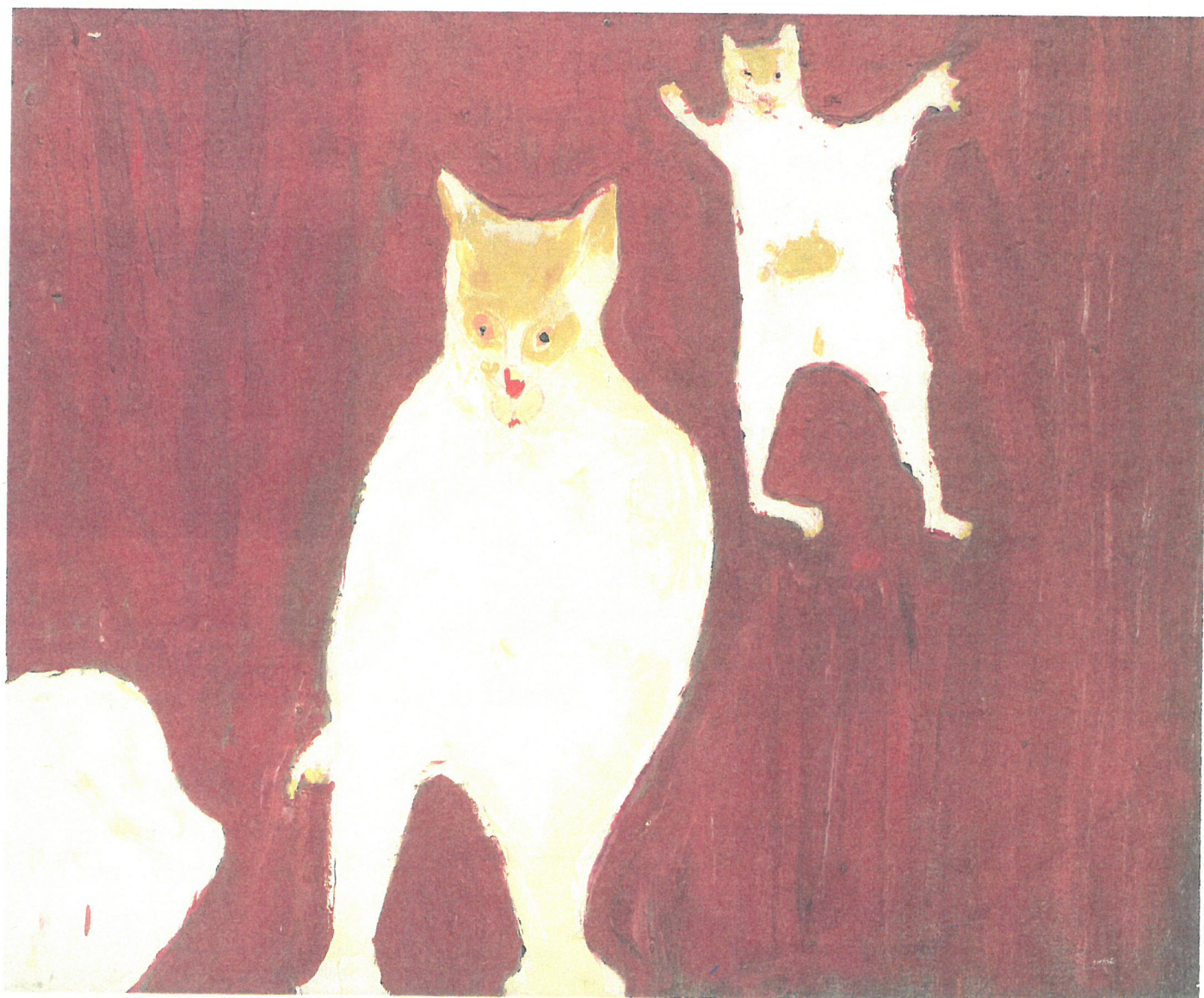
ワークショップ会場

みずのき美術館 開館記念展

日本のアール・ブリュット について語ろう

私たちが考えるこれからの美術

2012年10月8日(月・祝) — 2013年3月17日(日)



休館日：月曜日・火曜日（但し、祝日の場合は開館）
開館時間：10：00 - 18：00
入館料：一般 = 400円 / 高大生 = 200円 / 中学生以下無料
主催：みずのき美術館・日本財団
監修：保坂健二郎（東京国立近代美術館主任研究員）

みずのき美術館



日本のアール・ブリュットについて語ろう

——私たちが考えるこれからの美術

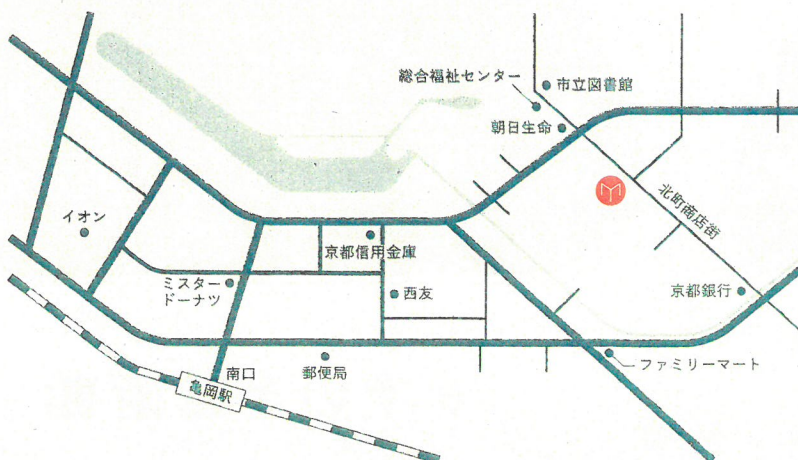
「アール・ブリュット」ってなに？ 「生(き)の美術」と訳してみたり、「正規の美術教育を受けていないつくり手による、美術史的には判断しづらい作品」と定義してみたりすることはできます。でも、事はそう単純ではありません。たとえばみずのきの作品は、ローザンヌにあるアール・ブリュット専門の美術館に収蔵されていますが、パリで「アール・ブリュット・ジャポネ」展が開催された際には出品されませんでした。きっと、みずのきのように、プロの画家の「指導」がある場合には「ブリュット」ではなくなるということなのでしょう……でも、となると、それらをなんと呼べばよいのでしょうか。単なるアート？ それとも他の言葉を生み出すべき？ 今回の開館にあたり、そんな根源的な問題をちょっと考えてみてはどうかと思い、澤田真一さんなど「ジャポネ」展に出品された9作家約50点と、小笹逸男さん(1924年-2012年)などみずのきの13作家約20点を展示することにしました。

○アール・ブリュットとは？

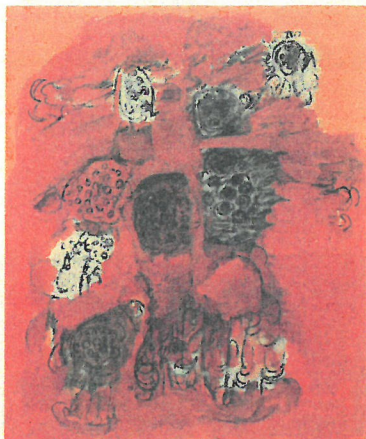
第2次世界大戦後、価値観の再編成が行われる中、フランスの芸術家ジャン・デュビュッフエによりつくられた言葉。日本語に訳される場合には、「生(き)の美術」「生(なま)の美術」とされることが多い。伝統的な美術教育を受けていない作り手によって制作されるそれらの作品は、美術史的な枠組みでは解釈し尽くすことができない。イギリスの美術史家ロジャー・カーディナルは「アウトサイダー・アート(outsider art)」と訳している。

○みずのき美術館とは？

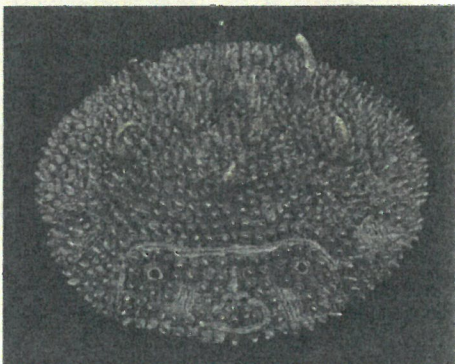
アール・ブリュットの作品を紹介することを基本に据えた美術館。商店街の一角に建っていた大正時代の小さな町屋が、建築家・乾久美子によって、先進的かつ開放的な空間として生まれ変わりました。かつて、いち早く、日本のみならず世界各国から注目された「みずのき」が、「新しいもの、古いもの、きれいなもの、少しかわったものが共存している」この空間で、アートと創造性について、多様な視点と方法で向き合います。なお、VIのデザインは菊地敦己によるものです。



1



2



3

- 1 岡本由加「タイトル不明」1997年/松花苑みずのき所蔵
 - 2 山崎孝「無題」1998年/松花苑みずのき所蔵
 - 3 澤田真一「無題」2006年~2007年/日本財団所蔵
- 表面 小笹逸男「遊ぶ猫」1982年/松花苑みずのき所蔵

みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18
TEL 0771-20-1888 / FAX 0771-20-1889
www.mizunoki-museum.org

JR嵯峨野(山陰)線 亀岡駅 南口下車 徒歩8分
美術館に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

※10月7日までは下記へお問い合わせください。
みずのき美術館 開設準備室
〒621-0007 京都府亀岡市河原林町河原尻下五丹12
松花苑みずのき内(担当:奥山)
TEL 0771-23-2101 / FAX 0771-25-4634
E-mail mizunoki-art@syokaen.jp

昨年の国民文化祭で好評だった「あかりの祭典」を
今年も亀岡祭の宵宮にあわせて開催します。

銚釘へいざなう幻想的なプロムナードをお楽しみください！

【あかりの祭典・出展作品】

- ◎ あかりの点灯式
「ファイヤーパフォーマンス」
一亀一遊
篠町つくり推進会/亀岡市内小学生
- ◎ 「竹灯ろう」
一般公募作品
- ◎ 「手づくりあかりの作品展」
亀岡市内中学校美術部
- ◎ 「手づくりランタン」
あかりの芸術系
亀岡高校第1科芸術系
- ◎ 「切り絵灯ろう」
東淀町自治会文化委員会
- ◎ 「酒吞童子灯ろう」
篠町つくり推進会(協力: 東淀中学校・津田中学校 美術部)
- ◎ 「ハロウィーンのあかり」
京くろろの体
- ◎ 「ヤマホコランタン2012」
みずのき美術館
(協力: プロジェクト保津川、保津川遊船企業組合、ピクニックマイル、アオキガスターワークス)

第3回

あかりの祭典

10月24日(水) 午後5時30分～9時30分

南郷公園周辺・南郷池

行列や銚釘の
様子レポートする
中継隊と南郷公園の
特設ステージをライブで
観覧、Ustreamで生配信！
お席はもちろんな、家のパソコン
やスマートフォンからでも宵宮
の雰囲気味わえます。歴史風俗
に詳しい専門家と特別ゲストによる
楽しいトークも必見です。



茂山千三郎さん

宵宮銚釘・練り物行列
心と体と生中継

午後5時30分～9時00分
南郷公園 eco屋台村・特設ステー

ゲスト: 茂山千三郎さん(大蔵流狂言師)

解説: 植木 行彦さん(元 京都学園大学教授)

生中継URL ... <http://www.mizunoki-museum.org/live/>

※ Ustreamのサイトから「亀岡祭」検索でも視聴いただけます。 ※ スマートフォンでの視聴には専用アプリが便利です。

亀岡祭の宵宮を彩る「あかり」と「行列」

2012・ポスト国民文化祭

【練り物行列・演目】

- ◎ 「大津絵 練り物」
- ◎ 「酒吞童子」
- ◎ 「見参! 光秀と玉姫」
- ◎ 「亀岡百鬼夜行」
- ◎ 「漢字を伝えた王仁博士」
- ◎ 「浦島太郎と仲間たち」
- ◎ 「花遊里」
- ◎ 「表藤木の太ムカデ退治!」
- ◎ 「大田垣運月と西郷隆盛」

【参加団体】

- 地域資源を掘り起こす会
- 亀岡手づくり甲冑の会
- 京・くるかる隊 亀岡青年会議所
- 亀岡若菜会、花と緑の会、練り物業しみみ隊2012

【協力】

南丹高校、ボーイスカウト亀岡第一回

宵宮の ねりホコランタンプロジェクト

午後6時00分～9時00分
練り物行列と同コース巡行後
南郷公園に帰還

昨年の「あかりの祭典」で、南郷池を飾った
無数の「ヤマホコランタン」の兄弟達が
移動式の提灯「ねりホコランタン」に
姿を変え、行列の牽引役として
銚釘を練り歩きます!

【ねりホコランタン隊】
ボーイスカウト 亀岡第一回
ポランティアの皆さん



第3回

亀岡・練り物行列

10月24日(水) 午後6時00分～9時00分

南郷公園 → 銚釘各所 → 京町天満宮



かつて亀岡祭で祭礼行事として行われていた
「練り物行列」を現代に再現。
山鉦が並び華やぐ城下町を
さらに盛り上げる行列を目撃しよう!



主催: ポスト国民文化祭亀岡市実行委員会 共催: みずのき美術館/地域資源を掘り起こす会/地域資源活用実行委員会

何をまとって生きていく？

[アーティスト]

[テキスタイルアーティスト]

[フリースクール アウラ学びの森代表]

ピュ〜ぴる × 奈良平 宣子 × 北村 真也

日時：2012年11月3日[土・祝] 18:30～20:30[開場18:00]

会場：みずのき美術館 JR嵯峨野(山陰)線 亀岡駅下車 南口より徒歩8分

定員：50名[要予約、定員になり次第締切]

入場料：800円[みずのき美術館入館料含]

集団の中で、自分は誰とも違う、どれでもない・・・と感じる自分はいないだろうか

決まりきった定義に自分を当てはめて生きるのは苦しい

決まりきった枠組みに合わせて生きるのは苦しい

自分でも知らない心の底の底には何がある？

表(おもて)に現れないもの、少しぐらい覗き込んだぐらいでは到底見えないところには何がある？

以前、ピュ〜ぴるは

「自分は心がまるつきし女の子というわけではなく、きわめて中世的というか、男でも女でもない存在に思える。けれども日本社会で生きていくには、その在り方は非常にむづかしいので、意識的に女性へと身体の状態を変えていった」と言っています

性の不一致感・・・を抱きながら、この社会で、自分とは何者なのかを問い続ける存在のあることを知ってほしい

意識的(心の表側)には苦しい哀しいものばかり・・・そんな時を何とか超えて・・・そのあとには途方もないものが生まれてくることだってある

目的には“沈んでいる”日々から生み出したものが、思いがけない“奇跡”を生み出す

ピュ〜ぴると、そして、一見普通の男、北村真也、普通の女、奈良平宣子、しかし掘り下げていくと、やはり3人3様にアウトサイダーなるものが詰まっている！そんな3人が世に出るために“まとうもの”について、そして、それぞれの“挑戦”について語り合います

次回予告 順次詳細が決まりましたらお知らせします。

■2012年12月9日[日]

トーク&ライブイベント

ゲスト：大友良英[音楽家]

会場：みずのき美術館

[会場は変更場合があります]

■2013年3月10日[日]

講演会「無意識と創造性」[仮題]

講師：きたやまおさむ[精神科医・作詞家]

会場：みずのき美術館

[会場は変更場合があります]



ピュ〜ぴる

性差を超えた類稀なる存在として、近年世界的な評価を受けている。

その活動は現代美術だけに留まらず、アートディレクション・キャラクターデザイン・衣装デザイン・女優・執筆等多岐に渡る。

ピュ〜ぴるの紡ぎ出す作品の特徴として「生と死」「男と女」「自と他」「加害と被害」等の対立する概念を、作家自身の体験や思考を通じて自身の中に取り込み、自らが作品と同化することで、更に高次の概念へと昇華し、具現化される。現在、INSTALLATION・MOVIE・PERFORMANCE・PORTRAIT・SCULPTURE WORKSを独自の世界観で創り続けている。

2011年、松永大司監督・ドキュメンタリー映画『ピュ〜ぴる』公開。

奈良平 宣子(ならひら のりこ)

京都市立芸術大学専攻科修了。

テキスタイルアーティスト、京都嵯峨芸術大学名誉教授。

2012年 Miniartextil (イタリア)、2011年・2005年国際テキスタイルトリエンナーレ(ベルギー)、2010年国際タペストリートリエンナーレ(ポーランド)、2009年国際テキスタイルトリエンナーレ(ハンガリー)他海外展多数出品、国内における個展多数。



北村 真也(きたむら しんや)

人間科学修士。日本教育カウンセリング学会、対人援助学会会員。専門は学習理論研究。教育学、心理学、社会学と学際的な研究活動とフィールドワークをおこなう。2000年

京都府亀岡市に自らの研究フィールドとして「グローバル教育研究所」を設立、同年、学びの共同体「アウラ学びの森」、2005年には京都府教育委員会認定フリースクール「知誠館」を開校し、自らの理論研究と教育実践を通して新しい学びのモデルの実現をめざす。また、文部科学省、京都府教育委員会、京都府青少年課の委託事業を受託し、行政と共に教育、心理、福祉に関わるプロジェクトを企画実行している。著書、論文として『学習塾がおもしろい』一光社、『そだちと臨床-私塾の可能性を模索する』明石書店、「ポストモダンな学びの構築」立命館大学がある。



開催中の展覧会

開館記念展「日本のアール・ブリュットについて語ろう
～私たちが考えるこれからの美術～」

会期：2012年10月8日[月・祝]～2013年3月17日[日]

監修：保坂健二郎[東京国立近代美術館主任研究員]

入館料：一般400円/高大生200円/中学生以下無料

開館：水曜日～日曜日 10:00～18:00

休館日：月・火曜日[但し祝日の場合は開館]

参加申し込み・問い合わせ先

メールまたはファックスにて「氏名」「住所」「連絡先(TEL)」をご記入の上、下記までお申し込みください

みずのき美術館

〒621-0861 京都府亀岡市北町18 TEL 0771-20-1888 FAX 0771-20-1889

E-mail info@mizunoki-museum.org URL www.mizunoki-museum.org

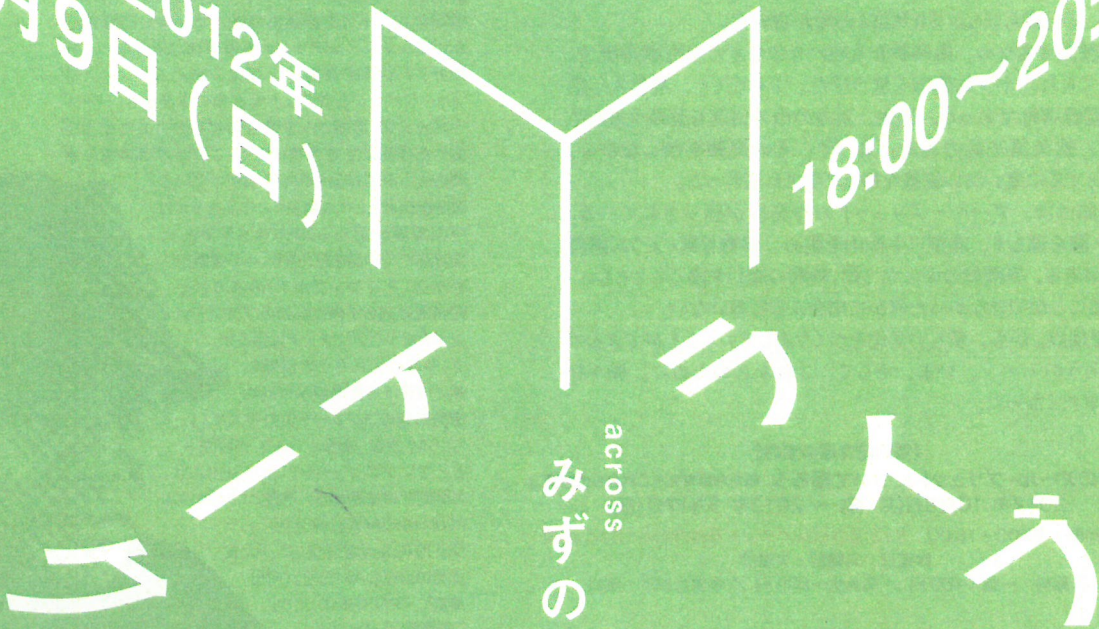
音楽家

大友良英

「ノイズの狭間で文化について考える」

2012年
12月9日(日)

18:00~20:00



across

みずのき美術館

大友良英 トーク & ライブ

「ノイズの狭間で文化について考える」

across みずのき美術館

2012年 12月9日(日) 18:00~20:00(開場17:30)

料金: 1,500円(高大生1,000円) ※入館料を含む

定員: 40名(要予約・先着順)

申込: 電話かFAX、メールで「氏名・住所・連絡先(tel.)」をお伝えください

《みずのき美術館》tel. 0771-20-1888 / fax. 0771-20-1889

/ e-mail: info@mizunoki-museum.org

開館記念特別企画「across みずのき美術館」

みずのき美術館をつくったのは、重度の知的障害のある人たちが暮らしてきて53年目を迎えた施設である。創設5年後に「労働だけでなく豊かな時間を彼らに」と願った創設者の意思で、週一度「絵を描く時間」が設けられた。その30年後、そこから生まれた作品がスイスの美術館「アール・ブリュットコレクション」にアジアで初めて永久収蔵された。それからさらに20年近くの時が流れた。

美術館を開設するため、亀岡駅から西へ5分ほどの北町商店街で、大正期に建てられた小さな建物を見つけた。主を亡くし、荒れるに任せた小さな理容店跡であった。過去、営みの中で何度も改修を重ねていた建物は、乾久美子氏の設計によって、その痕跡を残しながら、次代が必要とするに違いない価値を抱えて生まれ変わった。

今、美術館には、アール・ブリュットの作品群が展示されている。大きなガラス窓を通して、北東に牛松山を眺め、建物を貫くように南西へと旧街道が走る。美術館の中に立てば、時間の流れを感じるとともに、今まで眺めることができなかった何かに出会えるに違いない。

この「交差点」から、新しい文化をつくり出していくことができるのではないだろうか……。いま、そして、これからのために、様々な表現者を招きたくなった。

【開館記念展の案内】

「日本のアール・ブリュットについて語ろう 私たちが考えるこれからの美術」
2012年 10月8日(月・祝) ~ 2013年 3月17日(日)

開館時間: 10:00 - 18:00 ※12月9日はイベント準備のため16:00閉館

休館日: 月曜日・火曜日

入館料: 一般...400円 / 高大生...200円 / 中学生以下...無料

みずのき美術館

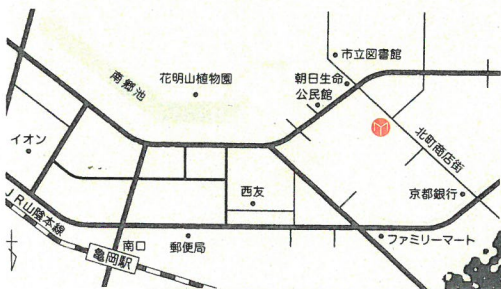
〒621-0861 京都府亀岡市北町18
JR嵯峨野山陰線亀岡駅下車南口より徒歩8分
www.mizunoki-museum.org

ノイズミュージックやフリー・ジャズの分野で活躍する一方、映画やドラマ音楽も手掛ける大友良英。近年は、音楽と美術を横断した表現や知的障害のある人とミュージシャンによるグループ「音遊びの会」のサポートでも注目を集め、昨年からは、福島出身のアーティスト達と共同で「プロジェクトFUKUSHIMA!」を立ち上げるなど活動の幅広さは驚異的とも言える。そんな彼が、今年10月に開館したばかりの「みずのき美術館」にやってくる。近年の活動を中心にしたトークと、アコースティックなライブで新しいこの場所に、どんな風を導いてくれるだろう?

大友 良英 OTOMO YOSHIIHIDE

音楽家、ギタリスト、ターンテーブル奏者。1959年横浜生まれ。十代を福島市で過ごす。常に同時進行かつインディペンデントに多種多様な作品をつくり続け、その活動範囲は世界中におよぶ。ノイズやフィードバックを多用した大音量の作品から、ジャズやポップス、歌謡曲、音響の発生そのものに焦点をあてた作品までその幅は広く、この数年は美術の領域にまたがる作品も数多く手がけている。映画音楽家としても数多くの作品を手がけ、中国香港映画からNHKのドラマまで、現時点で70作品を超えるサントラを制作。近年は「アンサンブルズ」の名のもと音楽家に限らず様々な道のプロフェッショナルからアマチュアに至るまで、多様な人たちの協働を軸に展開する音楽展示作品や特殊形態のコンサートに力を入れている。現在、遠藤ミチロウ、和合亮一とともにプロジェクトFUKUSHIMA!の共同代表を務める。著書に『クロニクルFUKUSHIMA!』(青土社)、『MUSICS』(岩波書店)、『大友良英のJAMJAM日記』(河出書房)、『ENSEMBLES』(月曜社)などがある。

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION



みずのき美術館 開館記念トーク

日本のアールブリュットについて語ろう

【東京国立近代美術館主任研究員】

保坂健二郎 × 岡部太郎

【財団法人たんぽぽの家スタッフ】

アール・ブリュットってなに？

「生(き)の芸術」と訳されたり、「正規の美術教育を受けていない
つくり手による作品」と定義されたり…「エイブル・アート」もある、
「障害者芸術」というのも聞く… やっぱわかりにくい… その
定義、分け方って意味あるのかな？。

それらのこと、それにまつわること、お二人に語っていただきたいと
思います。わからないことも聞いてみましょう！ すっきりしましょう！

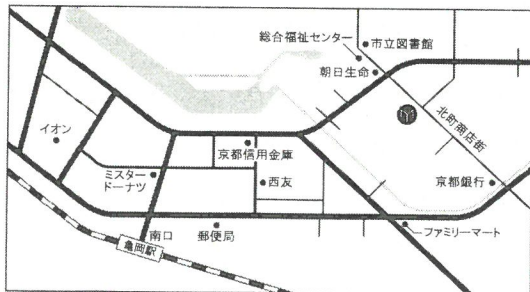
日時：2012年 **12月22日(土)**

◎14:30～15:00 保坂健二郎氏によるギャラリートーク

◎15:30～17:00 開館記念トーク

◆会場：みずのき美術館 ◆参加費：無料(入館料別途) ◆定員：40名(要予約・先着順)

お申込みの方は、電話・ファックス・Eメールいずれかにて『お名前・ご住所・ご連絡先』をお知らせください



お問い合わせ先 **みずのき美術館**

〒621-0861 京都府亀岡市北町18

JR嵯峨野(山陰)線亀岡駅南口より徒歩8分

TEL.0771-20-1888 FAX.0771-20-1889

www.mizunoki-museum.org

E-mail: info@mizunoki-museum.org

プロフィール

保坂健二郎(ほさか けんじろう)

1976年生まれ 東京国立近代美術館主任研究員。本展監修者。企画した主な展覧会に「エモーショナル・ドローイング」「この世界とのつながりかた」「建築はどこにあるの？」など。滋賀県アール・ブリュットアドバイザーも務める。

岡部太郎(おかべ たろう)

1979年生まれ「財団法人たんぽぽの家」にて、あたらしいアートの可能性を探る市民芸術運動「エイブル・アート・ムーブメント」に関わり、コミュニティでのアートプロジェクト、展覧会やワークショップ、セミナー、舞台などの企画を担当している。

Supported by

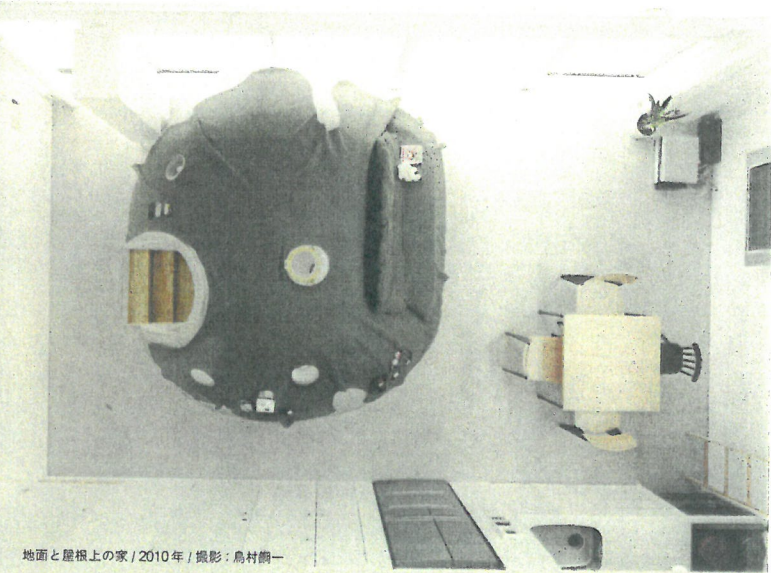
THE NIPPON
FOUNDATION

みずのき美術館





開館記念特別企画
トーク
乾久美子
×
SPACSPACE



地面と屋根上の家 / 2010年 / 撮影：鳥村尚一

小さな都市と建築

大きな窓に映り込む街の日常を記憶し、
新たなストーリーを紡ぎ始めたみずのき美術館。
そしてこの小さな美術館を迎えた小さな都市、亀岡。
街と建築はどのように関係しあっていくのか——
建築家・乾久美子が SPACSPACE の香川貴範、
岸上純子を交えて考察する。

乾久美子 (いぬいくみこ)
1969年 大阪府生まれ
1992年 東京藝術大学美術部建築科卒業
1996年 イェール大学大学院建築学部終了
1996-2000年 青木淳建築計画事務所勤務
2000-2001年 東京藝術大学美術学部建築学科常勤助手
2000年 乾久美子建築設計事務所設立
2011年 東京藝術大学美術学部建築学科准教授

SPACSPACE (スペーススペース) WEB: <http://www.spacspac.com>
社会システムへの新しい関わり方を持ったデザインを発明するべく、大阪を拠点に活動を展開。主な作品に、「地面と屋根上の家」(2010)、「磯山調剤薬局」(2010)、「Dアパートメント」(2011)。主な受賞に、大阪建築コンクール渡辺節賞、SAIE SELECTION 2012、Design for Asia Award 2012 など。
・香川貴範 (かがわ たかのり) …建築家。1974年大阪府生まれ。東京工業大学大学院修了後、坂倉建築研究所を経て、2006年SPACSPACE設立。
・岸上純子 (きしがみ じゅんこ) …建築家。1979年大阪府生まれ。神戸大学大学院修了後、坂倉建築研究所を経て、2010年よりSPACSPACE、大阪工業技術専門学校特任教員。

2013年2月24日 | 日 |
14:00 - 16:00

みずのき美術館2階 料金無料 (入館料別途)



※美術館に駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

みずのき美術館



〒621-0861 京都府亀岡市北町 18
TEL...0771-20-1888 / FAX...0771-20-1889
E-mail info@mizunoki-museum.org
亀岡駅南口より徒歩 8 分



LECTURE

開館記念特別企画 講演会

きたやまおさむ

精神分析学者・作詞家

幻滅と別れ話だけで終わらない
ライフストーリーの紡ぎ方

日時 3月17日(日) 15時〜17時
会場 玉川楼

TEL 0771-20-1888
FAX 0771-20-1889
info@mizunoki-museum.org

みずのき美術館



わたしたちは、打ちひしがれて生きなければならないことに多く出遭い、
それを吹き消すような創造力も持ち合わせていない
自分自身がかけがえのない存在と思える創造的な生き方は、果たしてあるのだろうか…
わたしたちは、自分のものであるはずのこころの中をよく知らず、
苦しみ、間違いを繰り返す

精神分析学者であり、作詞家でもあるきたやまおさむ

言葉とずっと向き合ってきた

言葉の奥にある意味をずっと探求してきた

きたやまおさむは、日本人のこころを明解に分析し、そしてあたたかく語りかけてくれる

そして、生きていきたい、と思わせてくれる

きたやま・おさむ

1946年淡路島生まれ。精神分析学者。京都府立医科大学卒業後、ロンドンのモーズレイ病院などを経て、北山医院（現・南青山心理相談室）を開設。1991～2010年まで九州大学教授。現在、臨床の傍ら白鷗大学教授、国際基督教大学客員教授を務める。他方、ミュージシャンとして、65年、ザ・フォーク・クルセダーズを結成、解散後は作詞家としても活躍。代表作に『戦争を知らない子供たち』『あの素晴らしい愛をもう一度』などがある。著書に『みんなの精神科』『ビートルズを知らない子どもたちへ』、近著に『帰れないヨッパライたちへ 生きるための深層心理学』。

- 日時 2013年3月17日(日) 15:00～17:00〔開場 14:30～〕
- 会場 玉川楼〔京都府亀岡市安町90 TEL 0771-22-0036 / FAX 0771-22-0353〕
- 料金 1500円〔当日券のみ/美術館入館料含む〕
- 定員 150名〔要予約〕

※ 電話・FAX・メールのいずれかで氏名、連絡先をお伝えください。

※ 美術館でのお支払いも可能です

○申し込み・問い合わせ先

みずのき美術館 担当：奥山

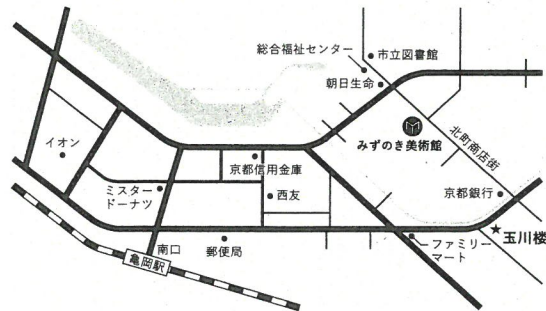
京都府亀岡市北町18 〒621-0861

TEL 0771-20-1888

FAX 0771-20-1889

info@mizunoki-museum.org

www.mizunoki-museum.org



Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION